

論文

中国語敬語の定義と構造の再検討

——『謙詞敬詞婉詞詞典』の考察を踏まえて——

呉 天一

広島大学文学研究科博士課程後期

A review of Chinese honorific's
definition and contracture

——Based on an observe of *Honorific Dictionary*——

WU Tianyi

Abstract: The honorific expresses have played a very important role in development of Chinese. The development of honorific expresses is to adapt the needs of communication in civilization. Under the feudal system, the honorific expresses mainly appear the contrast of grade and position. However, in the different periods of time, the honorific expresses will present different language and the culture patterns. In the modern society, the purpose of using honorific expresses is to show respect and friendship. Expresses which are out of accord with the times will be abandoned, and some new expresses will join in. Therefore, the definition of honorific should be changed in time. This paper will review the definition of honorific and categories by observe the entries in Honorific Dictionary edit by Chengyu Hong and establish some basic definition to research honorific expresses in modern Chinese.

Keywords: honorific, definition, factor or honorific, categories

1. はじめに

敬語は、人間の言語行動の一つであり、普遍的な言語現象である。とくに日本や韓国をはじめとするアジア文化圏では、敬語の語彙や言語的表現の数は欧米言語と比べれば遥かに多い。同じアジア文化圏に属する中国も、敬意を表すために用いるための言語表現は非常に発達していた。それにもかかわらず、現代中国語において、敬語に対する認識は混乱している。一般語と敬語の境目は明確ではなく、敬語の諸概念も不明瞭である。その上、言語は常

に変化しており、元来の敬語表現を頻繁に使うことにともない、丁寧度を感じにくくなる。それ故に、「現代中国語では敬語がない」という声もある。こうした問題は敬語に関する諸概念を明確にすることによって解決できると考えられる。

「ケイゴ」¹という概念は「敬辞」とよく混同される。中国語の「敬語」という単語は最新版の『現代漢語詞典』では下記のように定義されている。

【敬語】〔名〕 敬辞; 语言中表示尊敬的成分。(言語の中で尊敬を表す要素である)

また、「敬辞」を調べてみると、下記のように定義されている。

【敬辞】〔名〕 表示恭敬的言辞。(恭しさを表す言葉である)

この定義からみれば、中国語における敬語に関しては二つの問題がある：

一、現代中国語文法において、広義的な敬語は取上げられておらず、「ケイゴ」という概念は「他人に対する尊敬」だけを強調している。その他の敬語表現または敬語表現の類に属するもの、例えば謙讓、謙虚及び婉曲表現などについては言及されていない。

二、考察する視点は話す相手に着目するだけで、話し手の地位の上げ下げや改まりなどを考えていない。

実際に、中国語学における「敬語」の概念、いわゆる敬意を表す言語表現に対しては、まだ統一的な呼称がない。それぞれ相手の地位や身分の違いにより、尊敬的表現は「敬詞」と、謙遜的表現は「謙詞」と、婉曲的表現は「婉詞」あるいは「客套话」と呼ばれ、それぞれ尊敬、謙遜の意を示す接頭辞と、「ケイゴ」を意味する「詞」という言葉から構成されている。これに対して日本語では、敬語の概念が明確に定義されている。例えば、『日本国語大辞典』では下記のように定義されている。

【敬語】〔名〕 相手や話中の人物に対する敬意を表す言語的表現。日本語では相手や話中の人自身、およびその人に属する物や行為を敬う意味で用いるもの(尊敬語)、相手や話中の他人に対し、謙遜する意味で自分および自分

が関わる物・行為について用いるもの（謙讓語）、相手に対する直接の敬意から話し方を選ぶもの（丁寧語）が含まれる。

このように、日本語における「敬語」の概念は一つの大きなカテゴリーを成しており、その中には尊敬語だけではなく、謙讓語や丁寧語など敬意を表す言語表現が取り上げられている。こうした構造により、日本語の敬語は明確なシステムを形成している。

しかし、中国語学、とくに中国語語彙論において、共時的分析でも通時的分析でも、「ケイゴ」の語彙にはあまり触れられていないのが現状である。その上、現代中国語では、現在でも使われる伝統的な「ケイゴ」が数多く存在すると同時に、社会発展とともに新しく出現する「ケイゴ」表現が共存している。しかも、伝統的な「ケイゴ」の使用法や度量などが定まっているのに対し、新しく出現する「ケイゴ」表現はまた十分に定まっていない。例えば、同じ近況を伺う時、「最近干嘛呢？」（最近は何をやっているの？）のほうより、「近況如何？」（近頃はいかがですか）あるいは「最近在忙什么呢？」（最近お忙しいですか。）の方が明らかに敬意を払う表現であるが、この表現において相手に対する地位や敬意の度合いなど「ケイゴ」における属性は不明である。より有効かつ正確に「ケイゴ」を使うには、それら語彙や言語表現に対する属性を判明させ、分類しなければならない。

南不二男・林大・林四郎・芳賀綏（1974）では、敬語の要素と意味を分析することにより、敬語の機能を明らかにする方法が提示されている。敬語の要素は敬語の言語的表現を構成する最小値であり、これらの要素に従って敬語を分類することが可能になる。敬語の意味は具体的な文面表現を内容的な面について考えて、言語的表現を共通した特徴を分析することである。敬語の要素と意味を明確化することにより、中国語の敬語は形式だけにとどまらず、意味上からも分別することができ、敬語の種類をより明確に区別することも可能になると考えられる。本稿では洪の研究により分類されている「ケイゴ」をもう一度整理し、その要素と意味を明確にさせたいと思う。

2. 先行研究

洪成玉（1998）は、「谦词、敬词和婉词属礼貌语言，即在礼貌方面规范人的语言行为……迄今为止，还没有见过系统的整理和研究」（拙訳：謙讓的表現、

尊敬的表現及び婉曲的表現は礼儀用語に属する。すなわち人間の言語行動を礼儀で規範されるものである……しかし、これまでは（これらの表現を）系統的に整理や研究をする試みはなされていない」と指摘した。

一般的に、「ケイゴ」は礼儀用語に属する表現で、言語を修飾するものであり、言語の体系にあまり関係がないと考えられてきた。しかし洪（1998）は、「ケイゴ」の系統的な特徴を明らかにした。洪は、謙讓表現は謙遜の言葉を用いて自分や自分に関わる人物や事を指し、「敬詞」は尊敬の言葉を用いて他人や他人に関わる人物や事を指すと定義し、「謙詞」と尊敬表現を一つの種類としてまとめた。そしてもう一つの種類として、「婉詞」を、間接的表現を用いる語彙と定義した。

洪はこの定義に従い、『辞源』『漢語大字典』『漢語大詞典』、三国以前の文学作品と7000通余りの書簡から、3103個（2010年の補足版は約3800個）の語彙を集めた²。そのうち謙讓表現は639個、尊敬表現は1404個、婉曲表現は1060個であった。こうして、中国語においては非常に豊富な敬意表現があることが明らかになった。しかし、このような通時的手法は、敬語の歴史的な変遷を確認するためには有効だが、その中には現代社会において使いにくい表現やすでに使われていない死語が多く存在する。従って、現代中国語の「ケイゴ」を考察し、実用性のある「ケイゴ」を理解するためには、共時的研究が必要だと考えられる。

3. 現在の「ケイゴ」の分類状況

それでは、洪が分類した「ケイゴ」を見てみよう。洪が編纂する『謙詞敬詞婉詞詞典』では「ケイゴ」は「謙詞」、「敬詞」、「婉詞」の三つ大きなカテゴリーに分けられている。このカテゴリーの下位項目に目を向けると、「謙詞」には下位項目がない。「敬詞」には「通用敬詞」と「書札用敬詞」の二つに分けられる。「婉詞」は非常に多く、合わせて12個の下位項目を収録している。洪は従来の分類法に対して、初めてその機能に注目して「ケイゴ」を分類している。さらに、具体的な場面に合わせて表のような分類を行っている。

分類	謙詞	敬詞
場面	i、自分の親族についての表現 ii、自分の才能についての表現 iii、自分の身分についての表現 iv、自分の地位の表現についての表現 v、自分から相手に負わせた行為についての表現 vi、その他の表現	i、他人の事や他人に関わる人物や事柄についての表現 ii、男子についての表現 iii、自分は相手から自分に負わせた行為が恩に思えるについての表現 iv、自分は話の中の人物が自分に世話をする感謝の気持ちについての表現 v、上の立場の相手に対する表現 vi、直接敬意動作を含む表現 vii、死者や葬儀に関する表現 viii、その他の表現

表 中国語敬語を適用する場面の一覧表

前述したように、洪の研究は、これまでの「ケイゴ」の研究者の中で、初めて機能を考慮して分類を行った研究である。この方法は、他の分類法と比べれば全面的かつ体系的に「ケイゴ」を収録できる利点がある。しかし、洪もこの分類について「謙詞は謙称自己、敬詞は敬称他人、両者の界限一般は清楚的、但是由于用謙詞是为了表示对人尊敬，用敬詞是为了表示自己谦卑，有时候两者的界限也容易相混」³（謙詞は自分の事を遜って表し、敬詞は他人の事を尊敬して表す。両者の境目は一般的には明らかだが、他人に尊敬の意を示すために謙詞を使い、自分の謙遜さを表すために敬詞を使うために、時々両者の境目を間違えやすい）と指摘しているように、「ケイゴ」を明確に区別することができていないとは言えない。本稿では洪の研究を踏まえて、敬語のさらなる明確な定義を検討したい。

4. 「ケイゴ」の意味

上記洪の分類は初めて「ケイゴ」を定義し、それに基づいていくつかの下位項目を作った。しかし、ここで一つの大きな問題が生じる。それは、ある

程度、謙讓表現と尊敬表現の境目は明白になっているが、例外もいくつか存在しているという点である。その原因として、洪は2つの理由を挙げている。一つ目はある尊敬表現が、文字通りに尊敬であるか謙讓であるかが明確に区別できないという点である。例えば「屈臨」の場合、「屈」はもともと自分の地位を下げ、自分の行為を他人に負わせるという謙讓的要素である。しかし、他人の行動に使う時、「ご迷惑をかけて申し訳ない」という意味を表すので、尊敬表現である「莅臨」と語意は一致する。従って上述の表現は尊敬的表現と理解すべきである。

二つ目は特定の「ケイゴ」の尊敬的表現と謙讓的表現が一緒であるという点である。例えば接頭辞「老」の場合、他人に用いる時は尊敬的表現であり、自分に用いる時は謙讓的表現である⁴。

この問題の解決法として、洪は「如果遇到某些界限不甚清楚的谦、敬词时，主要可从用法上区分：是用于自称，还是用于他称？自称应该是谦词，他称应该是敬词」（尊敬と謙讓の境目がわからない場合、主に使用方法から区別する。自分を称する時は謙讓表現、他人を称する時は尊敬表現のはずである）としている。しかし、この方法はまだ尊敬と謙遜を明確に区別できているとは言えない。その理由としては、「ケイゴ」の要素が重なる問題を十分に解決できているとは言えないからである。その結果、「ケイゴ」の意味的要素が作用するアプローチが解明できなくなる。したがって、本稿では、日本語の敬語を研究する際に用いる意味論の研究方法で「ケイゴ」を分析したい。

4.1 意味論で分析する「ケイゴ」

南不二男（1974）は、敬語を意味で分析する際に、二つの手法があると述べている。一つは、ある表現の各要素の意味の関係、いわゆるパラディグマティックな関係を分析する。この方法は主に敬語の諸要素を分類するために使用する。もう一つはある言語表現の中に、特定の敬語的な要素と共存する言語記号の関係を分析する、いわゆるシンタグマティックな関係である。この方法は主に敬語を使用する場面及び会話中の人物の地位を決めるために使用する。この二つの関係を考察することにより、敬語の意味を明確にすることができる。この方法を借用して、「ケイゴ」の意味に明らかにし、「ケイゴ」の定義を再検討したい。

4.1.1 「ケイゴ」のパラディグマティックな関係

今まで「ケイゴ」の意味については単一の性格のものだと考えられてきた。つまり、前述した通り、謙遜の言葉を用いて自分や自分に関わる人物や事を指すのは「謙詞」、尊敬の言葉を用いて他人や他人に関わる人物や事を指すのは「敬詞」、直接的な表現を避ける場合、間接的表現を用いる語彙は「婉詞」として認識されてきた。その結果、「謙詞」と「敬詞」の境目が明白でない場合、尊敬語と謙譲語の間で混乱を起しやすいためである。

日本語の敬語もこうした問題があったにもかかわらず、解決に至るまでに一つの考え方に導かれた。すなわち、「ある敬語の要素、あるいは敬語の要素のある類の意味は、さらに小さな意味上の構成要素の複合体であるとする考え方である」⁵。これにより、意味の構造の分析ができ、その共通点と相違点を明確にすることができる。さらに、分析された表現が敬語においてどう分類されるのかも知ることができる。

日本語の敬語の意味の構造を説明するために、林・南（1974）は意味の構成要素を仮定し、表1のような項目を設定している。

項目	記号	意味
内容	I	コミュニケーションの内容
参加者	Ar	言語主体
	Ae	相手
	R (Ra, Rp)	関係者 (動作主、被動作主)
状況	S	あるコミュニケーションがおこる全状況の中から前述の参加者を除いたもの
配慮方向	→	言語主体が配慮する対象及びその方向を示す e.g. Ar → S
関係	-	上記参加者の間の関係についての配慮する時の記号 e.g. Ar → Ar-Ae
扱いの対象	IR (IRa, IRp)	素材的内容 (動作主、被動作主そのもの、その動作・状態・動作のしかた、その他動作主・被動作主に属することが一般)
	IAR	表現的内容 (言語主体の表現についての態度)

表1 意味の構成要素の定義及び記号⁶

表2の要素及び扱いの特徴を各表現において具体的に分析すると、下記の

ようなマトリックスで表現することができる。

	+	-	±
上げ/下げ/中立	上げ	下げ	中立
強/弱/中立	強	弱	中立
近づき/はなれ/中立	近づき	はなれ	中立
あらたまり/くだけ/中立	あらたまり	くだけ	中立
負わせ/負い/中立	負わせ	負い	中立
美/醜/中立	美	醜	中立
おそれ/あなどり/中立	おそれ	あなどり	中立
ためらい/すぐ/中立	ためらい	すぐ	中立

表2 扱い特徴の+、-、±を示す意味7

本稿は図1のようなマトリックスを利用し、南と洪の理論を基礎にして、中国語の「ケイゴ」を分析していく。しかし、中国語の「ケイゴ」と日本語の「敬語」は完全に一致するわけではないので、扱いの特徴も中国語の特性に合わせて変更する必要がある。

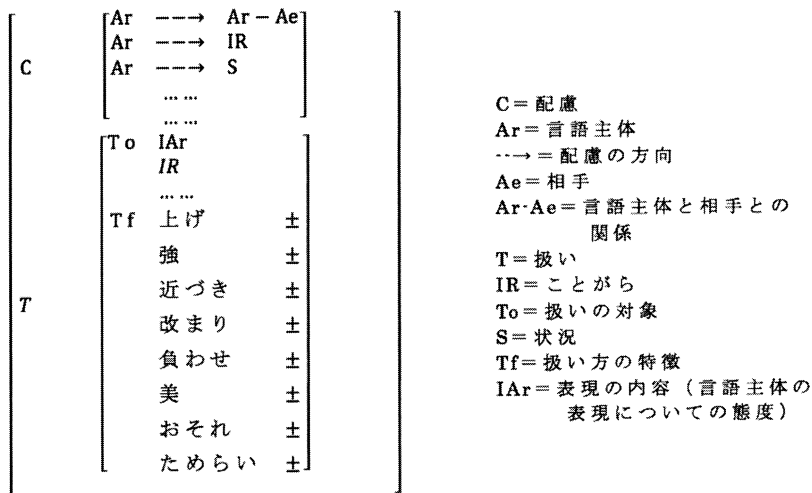


図1 日本語敬語の意味の分析図8

1、中国語では、自分や自分に親しい人に対する表現と他人または自分に親しくない人に対する表現は大きな違いがあり、基本的に、前者の場合に用いる表現は口語化や砕けた表現が多く、後者の場合は、改まった表現が多い。したがって、上のマトリックスの「近づき／離れ／中立」は「親／疎／中立」と変更する必要がある。

2、「強／弱／中立」という項目は本稿で論じる敬語においては強く関与する点が発見できない。元来広義的な敬語を取り上げるために設置した項目なので、ここで削除する。

3、中国語では、昔神や皇帝に対する表現、いわゆる「絶対敬語」が存在したが、現在において「絶対敬語」が完全に消失した以上、「おそれ」の項目は不適切であると考えられる。

4、中国語においては、語彙が広く使われれば使われるほど、表敬要素が少なくなる傾向がある。従って、「常用／特殊／中立」という項目を追加する。

5、中国語では、主語や目的語の片方を強調する場合、それに合わせて使う表現も違う。従って、「他人／身内／中立」という項目を追加する。

6、中国語では、非常に多くの婉曲的な表現が存在する。これらの表現により、直接的、間接的にものごとを表現することで、丁寧さが表せる。従って、「直接／間接／中立」という項目を追加する

従って、中国語の扱い方の特徴を示す項目は、下記ようになる。

	+	-	±
上げ / 下げ / 中立	上げ	下げ	中立
親 / 疎 / 中立	親	疎	中立
あらたまり / くだけ / 中立	あらたまり	くだけ	中立
負わせ / 負い / 中立	負わせ	負い	中立
美 / 醜 / 中立	美	醜	中立
常用 / 特殊 / 中立	常用	特殊	中立
身内 / 他人 / 中立	身内	他人	中立
直接 / 間接 / 中立	直接	間接	中立

表3 中国語における扱い特徴の+、-、±を示す意味

これにより、上記の項目は現代中国語の使用習慣に合致したと考えられる

ので、すでに挙げた「ケイゴ」の問題点を検証したい。ここでは、下記の文章を検討しよう。

句1:「校長屈臨寒舎。」句2:「校長光臨寒舎。」(学長が寒舎へいらっしゃいました)

この文章の「屈臨」の意味の構造を上での議論に沿って分析すると、以下の図2のようになる。そして先行研究により明らかにされた「敬詞」である「光臨」は図3のように表すことができる。

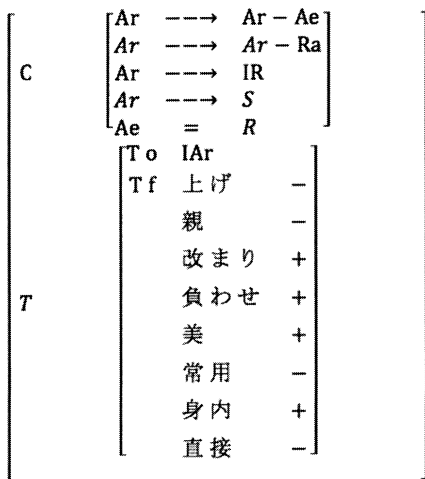


図2 「屈臨」の意味の構造

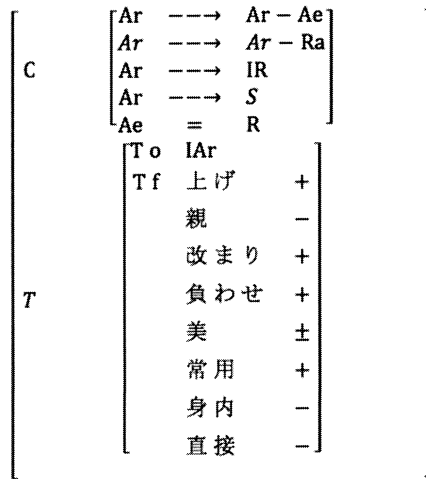


図3 「光臨」の意味の構造

図2と図3は一見大きく異なるが、詳細に分析すると以下のような結果になる。

1、配慮の対象については、両者は一致している。すなわち、言語主体は相手との関係、動作主との関係（ここでは動作主と相手は「校長」という同一人物である）、また動作主の動作と状況について配慮する。次に相違点であるが、「屈臨」の方は「下げ」の表現を使っているが、これは「寒舎」という「身内」のことがらを強調するためである。これに対して、「光臨」の方は、動作主「校長」という「他人」のことがらを強調するために使われている表

現である。扱いの特徴において、上げ下げの対象は完全に逆転している。つまり意味論に基づけば、「屈臨」は謙讓的表現「屈」を使っているにもかかわらず、敬詞に値すると考えられる。

もう一つの例で検証しようと思う。接頭辞「老」の場合、一般的に「敬詞」の接頭辞として使われている。しかし、「老朽」という語彙は年寄りの謙讓表現である。下記の文章を見てみよう。

句3：「老爷爷身体还好。」句4：「老朽身体还好。」（おじいさんはまだ元気です。）（わしはまだ元気です。）

の中の「老爷爷」と「老朽」を分析してみると、図4と図5が出てくる。

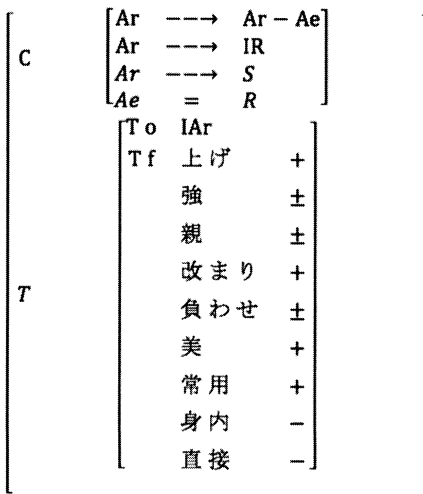


図4 「老爷爷」の意味の構造

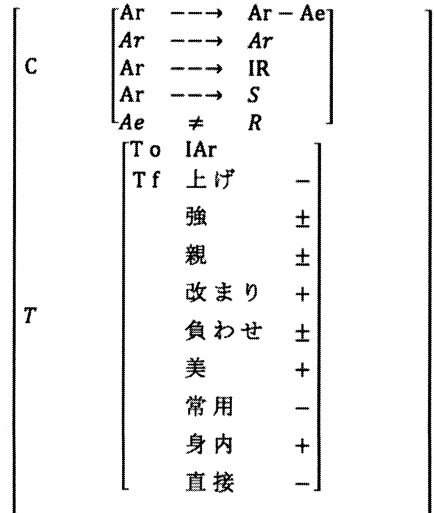


図5 「老朽」の意味の構造

「老爷爷」の場合、言語主体は相手との関係に配慮し、相手は関係者と見なされるのに対して、「老朽」の場合、言語主体自身について配慮し、相手は関係者とは見なされない。従って、表現の態度は異なり、「老爷爷」の方は扱い方を上げて、「他人」として扱われる。これは常用の表現であるが、尊敬的な要素が入っている。一方「老朽」の方は扱い方を下げて、「身内」の扱い方を

している。特殊な表現を用いているが、謙讓的な要素が入っているので、尊敬語として扱うことができない。

このように、意味の構成要素を中心に、配慮の方向や表現内容を分析すると、「謙詞」か「敬詞」か、分類が困難である表現もすぐに判別できる。したがって、こうした分析方法は日本語だけでなく、中国語においても有効であると言える。

4.1.2 「ケイゴ」のシンタグマティックな関係

日本語においては、敬語の関係が少し複雑である。林・南（1974）は、松江市の24時間調査資料をあげて、軽卑の表現（～チャン・アンタ）に尊敬語関係の要素（ナサル・（ラ）レル）が共存することを指摘し、敬語の要素と文章の関係は、異なる観点から検討して見る必要があると指摘している9。中国語の場合、「謙詞」は話し手、「敬詞」は話し手以外の人物、「婉詞」は直接言いにくい事柄を婉曲的に話すという決まりがある。中国語話者はこれに従い、語彙の所属を判断するだけですぐに「ケイゴ」を区別して用いることができる。その際、「ケイゴ」のシンタグマティックな関係は、「ケイゴ」の属性を判断する非常に重要な要素である。

しかし、すぐに語彙の所属が判断できない場合、誤解を生むケースは少なくない。例えば相手の忙しさを表す単語「百忙」という表現は、『現代漢語詞典』では、「一般的に忙しい様を指す」と説明されているが、この語が「敬詞」であるか、あるいは「謙詞」であるかは言及されていない。しかし、使用する時には主に「百忙之中」或いは「百忙中」（お忙しい中）という慣用句で使用されているので、意味の構造は「言語主体（Ar）が、相手（Ae）、ことがら（IR）、または状況（S）を配慮した結果、言語主体の表現態度を、上げ、改まり、美、敬い、の特徴をもつように扱う」10。いわば、「敬詞」の表現である。もちろん、これは他人にしか使われない表現なので、自分に向けて使うと誤用になるのである。

4.2 「ケイゴ」の定義

ここまでは、「ケイゴ」の言語学上の要素を分析して、意味の構造からそれらの要素の所属を分類することを試みた。そして特に日本語敬語の研究方法を導入することにより、「ケイゴ」の要素を明らかにすることができた。最後

にここまでの考察を踏まえ、使用主体ではなく、要素から見る「ケイゴ」の定義を示したい。

I、中国語を使うコミュニケーションにおいて、言語主体が相手、状況、ことがらなどに配慮して使い分ける言語表現を「礼語」とする。

II、言語主体が相手側のことを配慮し、その対象の地位を上げて改まった表現を使い、尊敬さを表現し、主に他人や他人に関わる人物や事柄を言及する時に使う言語的表現を「尊語」とする。

III、言語主体が身内のことを配慮し、その対象の地位を下げて改まった表現を使い、謙遜を表現し、主に自分や自分に関わる人物や事柄を言及する時に使う言語的表現を「謙語」とする。

IV、言語主体が身内のことを配慮し、その対象を上げ、間接的に、或いは上品な表現を使い、表現の内容を美化して話す。主に直接に言い難く、上品に物事を言いたい時に使う言語的表現を「婉語」とする。

以上のような「ケイゴ」の定義の変更によって、「ケイゴ」表現の範囲をこれまでの単文字・語彙レベルから文レベルまで拡大することが可能になり、いわゆる「礼語」に属す表現がさらに豊富になると考えられる。

5. おわりに

本文は洪の分類を踏まえ、日本語の敬語を分類する際に使う研究方法を用いて、「ケイゴ」要素の意味の構造を分析した。そしていくつか項目を変更した上で、日本語で用いられる構造分析が中国語にも適用できることを証明した。さらに、以上の考察を踏まえ、洪の分類と比較し、意味の構造の面で新しい定義——「礼語」及びその下位項目の「尊語」「謙語」「婉語」という概念を提示した。洪の分類はケイゴ研究の端緒を開いた点で、高く評価されるべきであるが、まだ十分に説明できていない表現がある。また、洪の分析は依然として詞に注目しているので、現代中国語の礼語体系を解明するには、常用語彙や慣用表現に対してさらなる分析が必要である。今後、これまでに取り組まれていない常用語彙の礼語要素の判別や実用性のある礼語の分類に、さらに現代中国語の礼語の使用実態を明らかにするために、本稿で明らかにした内容を活用していきたい。

注

- ¹ 中国語には、話す相手に対し、尊敬や謙譲を表す言語表現、いわゆる「敬意表現」は日本語における「敬語」の概念が違うので、分別するためにここで「ケイゴ」と記す。
- ² 洪成玉 『谦词敬词婉词词典』 商務印書館 2002年
- ³ 2と同じ p7
- ⁴ ただし、言語主体は年寄りでなければいけない。
- ⁵ 林四郎・南不二男編 『敬語講座』(Vol. 9) 明治書院 1974年6月 p18
- ⁶ 林四郎・南不二男編 『敬語講座』(Vol. 1) 明治書院 1974年6月
- ⁷ 6と同じ
- ⁸ 林四郎・南不二男編 『敬語講座』(Vol. 9) 明治書院 1974年6月 p20
- ⁹ 林四郎・南不二男編 『敬語講座』(Vol. 9) 明治書院 1974年6月 p25
- ¹⁰ 林四郎・南不二男編 『敬語講座』(Vol. 1) 明治書院 1974年6月 p108

参考文献

一、日本語文献

- 林四郎・南不二男編 『敬語講座』(Vol. 1/9) 明治書院 1974年6月
文化審議会答申 『敬語の指針』 2007年2月

二、中国語文献

- 洪成玉 「谦词、敬词、婉词概説」 『首都師範大学学报（社会科学版）』 1998（5）
p28-41
- 李麗静 「关于敬谦辞辞典编纂的一些想法—兼评《谦词敬词婉词词典》」 『辞書論集（二）』 2012年9月 p78-89
- 張雁 「值得关注的谦词、敬词和婉词—兼评《谦词敬词婉词词典》」 『語文研究』 2005（3） p22-26
- 中国社会科学院言語研究所詞典編纂室編 『現代漢語詞典（第6版）』 商務印書館 2012年6月